

音楽でつなぐ防災の心

阪神大震災の発生から22年となった17日、草津市役所で「追悼防災コンサート」が初めて開かれた。住民グループが日頃の備えを呼び掛けるテーマ曲を披露し、神戸市などから招いた被災者と防災宣言を行った。



防災への備えの大切さを込めた「17日はおにぎりデーの唄」を歌う市民ら
(草津市役所)

神戸などから参加者 園児・児童ら経験共有

約250人で黙とうした後、中央幼稚園と草津小、草津中の子どもたち、立命館大生ら市民の代表者が防災宣言した。神戸市や大阪市で震災を経験した人もマイクを握り、痛みを分かち合える心の大切さを語った。

毎月17日を「おにぎりデー」と定め、おにぎりを食べて防災について考えるきっかけづくりに取り組む「防災おにぎり委員会」の堀江尚子代表(44)「草津市野路1丁目」は「人と人とのつながりが最大の防災協定。おにぎりを食べる小さな1歩が2歩目につながる」と述べた。

草津中吹奏楽部の演奏に合わせ、同委員会のメンバーが「17日はおにぎりデーの唄」を披露すると、園児たちも振り付けを交えて元気いっぱいに歌った。22年前、神戸市中央区の自宅で被災した林美智世さん(44)「同市北区」は「私が前を向けたのは人とのつながりがあったから。これをきっかけに、市を越えてつながり合いたい」と話した。

(上坂恭平)